

大会テクニカルレポート

大会名	東京都5年生サッカー大会 JA東京カップ		
日時	10月8日(土)、9日(日)、10日(月)	会場	府中朝日グラウンド

東京都少年サッカー連盟 委員長 高山 清
技術指導部長 井上 雅志
文責 技術指導部 神長 雄太

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	66	218	3.3

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

プレッシャーのない中で、観て判断をしてプレーすることは出来ていた選手が多く、質の高いプレーも多く見られた。しかし、プレッシャーの厳しい場面では、ボールを失わないようにプレーすることに意識しすぎて、ボールしか観ていない選手が多かった。その為、ファールとタッチで相手をかわしたり、ワンタッチプレーなどの展開が少なく、ボールを足元にコントロールしてから次のプレーを行う選手が多く、プレッシャーの厳しい場面ではミスが目立った。雨の中での試合は、グラウンド状況によって判断しながらプレーする場面もちらほら見られた。ボールを受ける前に出来るだけ多くの選択肢を持ち、その選択肢の中から、優先順位や相手の状況を観て、判断出来るように、この年代からもしっかりと取り組んでほしい。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

相手守備者のプレッシャーが緩い場面では、コントロールに意図を持たなくても失敗をせずに済むが、プレッシャーが厳しい場面では、ファーストタッチ時に、ボールを奪われてしまう場面が多かった。高いレベルの選手は厳しいプレッシャーの中でも、しっかりと意図を持ち、コントロールをして相手と駆け引きをしながらプレーをしていた為、ボールを奪われる、失う場面が少なかった。またチーム全体としてボールを失わないことは大切なことだが、その結果、縦に大きなロングボールを多用することがあった。パスの精度に欠き、簡単に外にボールが出る場面が多かった。もっとリスクを恐れずにゴールを目指すことを優先順位として縦パスやギャップで受け、その中でも、ボールを失わずにゴールを目指してほしい。

③攻守に関わり続ける

意識の高い選手はボールを奪われた瞬間に取り返しに行くなどの攻守の切り替えが速く、当たり前なのがきちんと出来ていた。ただ、それは単発や個人で行うことが多く、味方と連動して攻守に関わり続けた場面は少なかった。また守備に関しては相手がボールをコントロールしてから守備に行く場面が多く、インターセプトを狙った選手は多くなかった。次のプレーを攻守ともに予測しながらプレーすることを意識してほしい。パディSC江東の選手たちが、インターセプトをした後すぐにゴール前方の味方選手にパスを入れたことがゴールに繋がった素晴らしいプレーが観られた。奪ってから次のプレーを考えるのではなく、ボールを奪う前からイメージしていなければ出来ない素晴らしいプレーだった。また、ボールを受けた88番の選手も、味方がボールを奪った瞬間にマークされていた相手から離れてパスラインを作り、相手より有利な状況でボールを受ける準備をしていた。攻守に関わり続けるだけでなく、次のプレーを予測して守備から攻撃の切り替えを速くしたことがゴールに繋がった質の高いオフザボールの動きであった。

④積極的にコミュニケーションできる

試合の中、選手同士がコミュニケーションをとってプレーする機会はあまり見られなかった。選手同士のコーチングの声かけももっと前向きな指示や声かけが出来たらよかったと思う。ルーズボールに仲間同士で交錯する場面が多かったのも、もっとコミュニケーションが出来たら、そんな場面が少なくなるように見られた。

⑤リスペクトの心をもてる

雨の中でコンディションの悪く中で、相手のボールを取りに行ったり、倒れている選手に手を差し伸べたりとする姿が多く見られた。

総評

1日目、2日目と雨の中のサッカーとなり、グラウンダーのパスでボールが止まることを恐れ、すぐに蹴ってしまう場面が多く見られた。その中でも横河武蔵野の選手たちや町田JFCの選手たちは、GKを含めて全員でパスを回しながらゴールを目指す場面がとても素晴らしかった。意図的にボールを奪うために前線から厳しいプレッシャーをかけ、守備の意識がとても高かったと思います。また、そういうなかでも判断を伴ったテクニックを発揮する選手が多かったのも素晴らしかったです。指導者の方や保護者の方も選手の自信ややる気を高める声が増えていて、とても良い試合だったと思います。